

Dialogue *for* People



ANNUAL REPORT 2023

境界線を越えた 平和な世界を目指す メディアとして

紛争や人権侵害が国内外で続いた2023年。

この1年も各地に赴き、過酷な環境で生きる人々の取材を続けてきました。

長きにわたり戦禍に置かれながら、地震の被害を受けたシリア。

命に関わる問題が指摘された入管法改定案が国会で成立した日本で、不安に晒される人々。

フィリピンに今も残る、

太平洋戦争時の加害の爪痕。

そしてイスラエルからの凄惨な攻撃が続く

パレスチナに、今生きる人々――。

2024年は団体設立から5年を迎えますが、境界線を越えた平和な世界を目指すメディアとして、

社会に届けなければならない声は

尽きることがない状況が続いています。

これからも一歩ずつ、みなさまと一緒に

進んでいけましたら幸いです。

認定NPO法人

Dialogue for People (D4P) 一同





イラク戦争から20年。テロによって幼い時に片足を失ったウマルさん(左)と家族は、治安悪化や過激派勢力イスラム国台頭によって何重もの避難生活を強いられた。(イラク北部クルド自治区、2023年/安田菜津紀)



民主化運動が軍事政権による激しい弾圧を受けた光州。市民たちの抵抗の拠点となった道庁で、軍の制圧直前、街に向けた最後の放送を担ったパク・ヨンスンさん。(韓国、2023年/安田菜津紀)



太平洋戦争末期、フィリピン奪回を目指すアメリカ軍がマニラに攻め込み、日本軍が抵抗する中、おびたしい数の命が奪われた。犠牲になった市民を慰霊し、その歴史を継承している群像。(フィリピン、2023年/佐藤慧)



連日、イスラエル軍による侵攻にさらされるジェニン難民キャンプ。破壊された家々の前で遊んでいた子どもたち。(パレスチナ自治区ヨルダン川西岸地区、2023年/安田菜津紀)

パレスチナ

ガザ地区からの声



2023年10月以降、イスラエル軍による激しい攻撃にさらされてきたパレスチナ自治区ガザ地区。それ以前から「天井の無い監獄」とも形容される厳しい封鎖状態に置かれてきたガザ地区で何が起きているのか。オンラインインタビューを通して、現地に暮らす方々の切実な声取材・発信しました。

パレスチナ

ヨルダン川西岸地区「占領」の実態



ガザ地区の状況が凄惨の一途をたどる中、ヨルダン川西岸地区もまたイスラエル側からの暴力に晒されていました。D4Pでは当初の事業計画上の予定を変更し、現地の様子を自ら確かめるため、そしてその状況を伝えるため、パレスチナに赴きました。残念ながらガザ地区に入ることはできませんでしたが、これまで以上に恣意的な拘束や破壊が日常化してしまったヨルダン川西岸地区取材しました。

イラク

イラク戦争から20年



「イラク戦争開戦」から20年の今と、それ以前から続くクルド人虐殺・迫害の歴史、そして報道の自由が限られた中で人間の尊厳を守るために活動するジャーナリスト取材しました。「証拠のでっちあげ」から始まった米軍によるイラク侵攻、犠牲になった人々は何ぞ死ななければならなかったのか——。それは当時、米国を真っ先に支持し、自衛隊を現地に送り込んだ、日本にも投げかけられています。

シリア

地震被害と関心の格差



2011年から戦争が続き、現在も政権やその後ろ盾のロシアによる市民の弾圧が続くシリア。しかし、時間が経つにつれ、世界の注目は別の場所に——。「あれだけ沢山いた国際支援団体や国連が、他で有事が起きたとたん撤退してしまった」という声も聞きます。そのような状況に追い打ちをかけるように、一帯を大地震が襲いました。「支援」や「報道」を含めた「まなごしの格差」の問題を考えます。

REPORTING THEME IN 2023

2023年度の主な取材テーマ

このほかにも、人権に基いた様々な社会問題の取材を行っております。ぜひウェブサイトからご覧ください。



フィリピン

加害の歴史



太平洋戦争期、アジア各地で日本軍による侵攻や占領が行われ、国際法に反する虐殺や性暴力を含む、おびただしい加害の傷跡を残しました。しかし、こうした戦争加害の歴史について、日本国内で十分継承されているとは言えない現状があります。2023年秋に取材に赴いたフィリピンでは、今も各地に太平洋戦争中の日本軍による加害の形跡が残されていました。

韓国

光州民主化運動



朝鮮戦争の休戦協定締結から70年。あくまでも休戦であり、緊張状態は続いています。2023年夏、韓国に赴き、徴用工裁判の現状や軍事境界線近辺の様子、そして1980年5月に光州市（現在は光州広域市）で起きた「光州民主化運動」について取材を行いました。軍事政権と家父長制の狭間で光が当てられてこなかったものとは——？現地取材を通して探りました。

入管収容問題

入管法改定案の問題



2023年6月、多くの問題が指摘されながらも国会で成立した改定入管法。法案の内容が明らかになった当初から、深刻な人権侵害への懸念が指摘され、一度は廃案となりました。再提出された法案の審議過程では、制度の問題の数々が明らかになり、立法事実の崩壊、隠蔽や虚偽が確認されました。D4Pでは、その制度の犠牲になった方のご遺族、大臣会見、街頭のデモなど、様々な側面から取材を行いました。

福島

原発事故といまだ終わらないその影響



東日本大震災、複合して起きた東京電力福島第一原子力発電所の事故から13年——。その土地で続いていくはずだった人々の暮らしと未来を、壊したのが原発事故でした。そして多くの犠牲を生んだ事故を経験しても、日本は、原発再稼働を推し進めています。福島原発事故から、私たちは何を学んだのでしょうか。D4Pでは2023年度も原発事故が社会に投げかけた「問い」に向き合いました。

REPORT OF PALESTINE

繰り返される不条理、 続く構造的暴力

パレスチナ取材の現場から

写真・文 安田菜津紀

被害の実態を伝えるために、凄惨な描写について触れている箇所がありますので、お気をつけください。

メッセージアプリで「兵士襲来」の情報が家族に伝わるのと同時に、危険を知らせるサイレンが一带に鋭く響いた。ほどなくして方々から銃声が響き始める—パレスチナ自治区ヨルダン川西岸の北部、ジェニン難民キャンプ滞在初日の夜のことだった。

ジェニン難民キャンプでは、ひしめき合うコンクリート造りの家々に、およそ1万4千人が暮らしている。住人たちは1948年のイスラエル建国時に土地を追われ、家を失った人々とその子孫たちだ。国連の報告書によると、西岸地区内に点在する難民キャンプの中でも、とりわけ貧困率、失業率の高い地域だという。

イスラエル側との圧倒的な力の不均衡を背景に、構造的な暴力と不条理は各地で綿々と繰り返

されてきた。ジェニン難民キャンプでは2023年7月にもイスラエル軍の激しい侵攻があったが、同年10月7日以降、襲撃の頻度は増しているという。

私たちの滞在初日に起きた銃撃戦は、深夜になるほど激しくなり、時折爆発音らしき野太い音も混じった。夜空にぼつりと浮かぶ細長い月を眺めていると、「ズズズズ……」というドローンの羽音が周囲の空気を震わせ始めた。その不気味な音

がようやく空から消えたのは、朝の9時頃だった。

少女たちが背負うトラウマ

サミール・アルゴールさん(50)の二階建ての家は、無残に壁がえぐれ、中にある家具まで粉々に砕かれていた。サミールさんはこのキャンプで、建設関係の仕事しながら、妻と5人の子どもたちと暮らしていた。昨年11月29日の早朝5時、家の外から突然銃声が響き始め、何事かと飛び起きる。



【上】キャンプ内の理容室前に集まってきた子どもたち 【下】イスラエル軍によって下水管などが掘り返され、キャンプのいたるところがぬかるんでいた



四方からロケットランチャーを撃ち込まれ、サミールさんは家族を連れて、窓から離れた中央の部屋へと身を寄せた。

2時間に及ぶ銃撃の後、崩れた壁から小型ドローンが屋内に侵入してくる。備え付けられたスピーカーから「外に出ろ」と命令され、サミールさんは恐る恐る庭へと出た。そこにはすでに、近隣住人2人の遺体が横たわっていた。イスラエル兵たちは「銃を

持ったテロリストが屋内にいる」と主張したが、一体何の話をしているのか、サミールさんには心当たりがない。家中の家具をひっくり返しても、彼らは「テロリスト」を見つけることはできなかった。それでも兵士らは破壊行為を止めず、庭や壁をブルドーザーで砕き、その場を去っていった。

その日のことを語るサミールさんの傍らでは、娘のミーナさん(14)が無言のまま、学校で使っていた

ノートや、妹のアクセサリを拾い集めていた。「特に深刻な影響を受けているのは2人の娘です。9才の娘はドアをノックする音がするだけでパニックになります。ミーナは遺体を見たことでトラウマを背負ってしまいました」と、サミールさんは声を震わせる。

女性たちの雇用と農家を支える非営利組織

こうした構造的不平等に終止符を打ち、共存の道を探ろうとする

人たちがいる。イスラエル北部、コフル・カナ村の「ガレリアのシンディアナ」は、ユダヤ女性とアラブ・パレスチナ女性が運営する非営利団体だ。平等な機会を得られない、アラブ・コミュニティの女性たちを雇用し、オリーブオイルのフェアトレードを手がけることで、不平等な状況に置かれたアラブ・パレスチナ農家を支えてきた。

シンディアナのビジターセンターで責任者を務めてきた、ナ

ディア・ジオールさんはイスラエル国籍のアラブ・パレスチナ女性だ。1948年のイスラエル建国の過程で、ナディアさんの父母たちも故郷を追われ、たまたま避難したのが現在でいうイスラエル領内だった。こうしてイスラエル人に「された」アラブ・パレスチナ人たちは、居住の制限を受け、職業選択の幅も狭められてきた。

シンディアナに出会ったのは7年前のことだった。共同創始者のハダス・ラハブさんは、自然な形でナディアさんたちとアラビア語で会話し、「ユダヤ人優位」ではないコミュニティが、そこには築かれていた。

10月7日朝、パレスチナ自治区・ガザを実行支配するハマスがイスラエル市民らを殺害する事件が起きた後、イスラエルによるガザでの虐殺は今に至るまで続いている。

ナディアさんは非暴力コミュニケーションのファシリテーターでもある。オンラインスペースを開設し、ユダヤ人とアラブ人、他のルーツ・国籍の人々にも場を開いてきた。

「私は参加者に、怒りや痛みといった感情を、他の人を責めたり攻撃したりせずに表現する方法、同じ空間で他者の話に耳を



ビジターセンターでインタビューに応じてくれたナディアさん

傾ける方法を教えています。たとえ意見が違って、耳を傾けることはできるのです」

不平等を覆す草の根の取り組み

そんなナディアさんにとって「共生」とは？と尋ねると、こんな答えが返ってきた。

「この小さな場所に、ユダヤ人とアラブ人が毎日やって来て、毎朝喜びを持って一緒に働くという事実です。一緒に座って、一緒

に食事をして—そしてそれを強制された方法ではなく、自然な方法で行うことです」

歴然とそこにある差別を無視し、単に「平和がいいよね」「仲よくしよう」と呼びかけるだけでは、その構造をかえって追認することになってしまう。シンディアナが月日をかけて築いてきた「共生」とは、その不平等を覆す草の根の取り組みだった。

各地でイスラエルによる虐殺や占領に加担する商品のポイコッ

ト運動が呼びかけられており、歴史を振り返っても、不買運動は不条理に抗う上で重要な役割を果たしてきた。日頃何気なく行う「購買」という行動は、どのような社会を支持したいかという投票行動にもなりえるのだ。だからこそ、シンディアナのように「共生」「平等」といった理念を掲げ続けてきた取り組みを支えることも、「架け橋」を築く上で重要な行動ではないだろうか。🔄



【上】「ガレリアのシンディアナ」ビジターセンター 【下】シンディアナの加工場で働く女性たち

WEBSITE D4Pウェブサイト記事

2023年度公開した記事やエッセイの中で最も多く読まれたのは、いずれも入管法改定に関する記事でした。

2023年度に最も読まれた記事



うめくウイシュマさんの前で談笑 —監視カメラには何が映っていたのか

名古屋入管の居室で、ウイシュマさんはどのような扱いを受けていたのか—。金井真紀さんイラストと共に報告した記事です。

(2023/2/20公開)



2023年度に最も読まれたエッセイ



「これから」の命の話を

入管法改定案の可決を受け、安田菜津紀が「これから」の命の話について綴ったエッセイです。(2023/6/9公開)



FREE MAGAZINE フリーマガジン「VOICE OF LIFE」

「世界に目を向け、未来を見つめる」をコンセプトに制作しているフリーマガジン。



Vol.5

「なぜ世界は私たちが無視するのでしょうか？」 関心の格差が生む命の格差

2011年に戦争が発生、現在も市民への弾圧が続く中、2023年2月には大地震に襲われたシリア。現地に暮らす人々への取材レポートをお届けします。



Vol.6

光州民主化運動と女性たち いまだ続く真相究明

1980年、韓国・光州市で民主化を求める市民たちが軍による弾圧を受けました。男性中心に語られることの多い、この「光州民主化運動」において女性たちが果たしてきた役割とは—。

BOOK 書籍

2023年度は新たに1冊の書籍が刊行されました。



国籍と遺書、 兄への手紙 ルーツを巡る旅の先に

安田菜津紀 著
ヘウレーカ
2,090円(税込)
2023年5月8日発売

安田菜津紀がつづる、自身のルーツを巡る物語。父は在日コリアン2世だった。父の死後に知ったその事実、著者のアイデンティティは大きく揺れ動く。自分はいったい何人なのだろう。父はなぜ語らなかったのだろう—。

さまざまな形で「伝え」「届け」ました。

YOUTUBE YouTube動画配信

時事ニュースを生配信でお届けしている音声番組をはじめ、様々なコンテンツをお届けしています。



Radio Dialogue

今この瞬間に起きている時事問題から、構造的な問題まで、多彩なゲスト、そしてリスナーのみなさんと一緒に考えていきます。



Voice of People

Dialogue for Peopleのジャーナリストが訪れた世界を、その地域に暮らす人々の声と共にお届けします。



カルチャーから知る朝鮮半島のこと

動画配信を通して、朝鮮半島や、そこにルーツを持つ人々の文化への理解を広げていくシリーズです。



D4P Global Interview

国内外の様々な場所で出会った取材パートナーや協力者、地元の人々へのインタビュー映像です。

2023年度 最も聴かれたRadio Dialogue

いとうせいこうさん「ガザを語る」
Radio Dialogue 134(2023/11/1配信)

連載

- 2014年4月～ CAPA(ワン・パブリッシング)「ドキュメンタリー写真家のメッセージ」
- 2020年4月～ WOWOW 公式 note「シネピック」
- 2021年3月～ 月刊「ヒューマンライツ」(部落解放・人権研究所)「言葉と写真で世界をみつめる」
- 2021年5月～ 生活と自治(生活クラブ連合会)「対話する日々の中で」
- 2021年8月～ 政治プレミア(毎日新聞)連載
- 2022年2月～ 沖縄タイムス 連載
- 2023年4月～ 新聞三社連合「社会時評」
- 2023年4月～ 朝日小学生新聞「世界との対話」

レギュラー出演番組

- 月1回～ TBSテレビ「サンデーモーニング」コメンテーター
- 週1回～ Amazon Exclusive『JAM THE WORLD - UP CLOSE』
- 月2回～ TBSラジオ「荻上チキ・Session」コメンテーター

数字で見る

D4PWeb記事	63本
YouTube動画	75本
講演	102件
出演	111回
執筆	113件
インタビュー/対談	32件
撮影/写真提供	15件
写真展	5件
自主イベント開催	1回
出版関連	1冊
フリーマガジン刊行	2件

若手発信者

育成事業

次世代と共に歩む

社会に存在する様々な課題——。その中には私たちの世代だけで解決できないことも、多くあるかもしれません。これからの時代を生きる世代にバトンを継承していくことも、Dialogue for Peopleの大切な事業のひとつです。



東北オンラインスタディツアー2023

東日本大震災の教訓を学び、これからの災害に備えよう

全国の高校生らがDialogue for Peopleフォトジャーナリスト安田菜津紀と共に、東日本大震災の被災地の現状や課題について学ぶ「東北スタディツアー」。2014年から毎年東北に足を運んできましたが、新型コロナウイルス禍となった2021年からはオンラインで継続してきました。2023年は高校生や大学生ら38人がオンラインで全国各地から参加しました。

第1部は「東北とオンラインでつながろう」と題し、岩手、宮城、福島3県からの語り部の方々が「東北の今」を伝えました。第2部では、参加者同士が小グループに分かれ、第1部の感想などを自由に話しました。2011年のあの日から丸12年を迎えるのを前に、参加者たちは震災の記憶と教訓を受け取り、「自分ごと」に引き寄せ、日頃からできる備えについて考えました。

東日本大震災の発生から1年、また1年と年を重ねるごとに、その記憶は遠い過去のものとなるかも

しれません。ですが、参加者たちは、講演して下さった方々の体験や思いを確実に受け取り、そこから「自分ごと」として何をすべきか、考え始めました。そうした一人ひとりの気づきや行動が、悲しみを繰り返さない未来に繋がると信じています。

登壇者



佐藤一男さん
岩手県陸前高田市



佐藤るなさん
岩手県陸前高田市



佐藤敏郎さん
宮城県石巻市



秋元菜々美さん
福島県富岡町

協賛 オリンパス株式会社

協力 OMデジタルソリューションズ株式会社

Read this report on the website

ウェブサイトでレポートを読む



D4Pメディア発信者集中講座2023

今年も、昨年に引き続き18～25歳を対象にした、「伝える」ことの意味や影響、可能性について改めて考えるイベント「D4P メディア発信者集中講座」を開催しました。3日間にわたり、社会課題に近い立場で、その背景や思いを「伝える」活動を続ける講師陣からの講義や、参加者同士の交流の時間を通じて、全国各地から集まった23名の受講生と共に学びを深めることができました。

終了後、参加者からは、「講座の内容はとても充実しており、自分の考えを深めることができました。そしてなによりも、社会に対して問題意識をもち、個々に活動している人がこんなにいるんだ!と知れたことが嬉しく、社会を生き抜く勇気になりました。」「登壇者の方、参加者同士との繋がりを持ち、真剣に真正面から語り合えたことはとても貴重な体験でした。」「講師の方から直接話を聞くことができ、社会問題に関心のある、同世代の人たちと言葉を交わすことができました。」といった声をいただきました。D4Pでは引き続き「伝える」を学ぶ機会を提供していきたいと思っています。

シ
ョ
ッ
ク
ブ



「わたし」の問いを見つける
講師：石岡史子さん(教育NPO代表)

講
座
1



発信前に、メディアの役割を知ろう
講師：荻上チキさん(評論家)

講
座
2



ファインダー越しに見つめる世界
——世界の紛争地、被災地から
講師：佐藤慧

講
座
3



ヘイトスピーチと報道
講師：師岡康子さん(弁護士)

講
座
4



性暴力に関する報道——報道による
二次被害と報道されない被害
講師：小川たまかさん(ライター)

講
座
5



視覚と聴覚で伝える映像ジャーナ
リズムの魅力
講師：伊藤詩織さん(ビデオジャーナリスト)

対
話



シェアリングタイム
担当：徳田太郎さん(ファシリテーター)

Read this report on the website

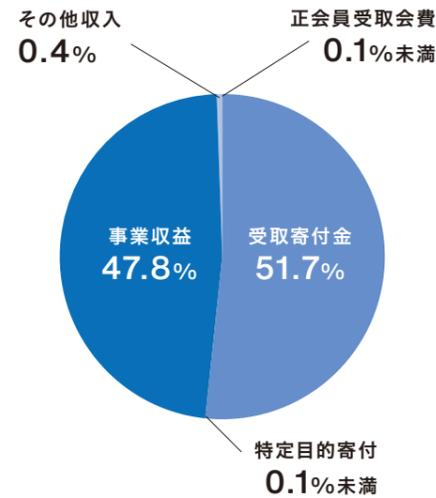
ウェブサイトでレポートを読む



会計報告

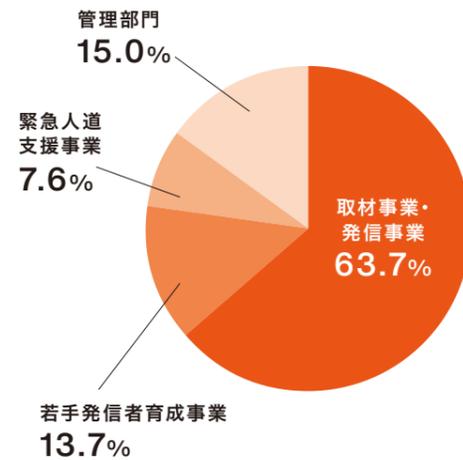
収入の部

項目	金額(単位:円)
正会員受取会費	30,000
受取寄付金	35,484,973
特定目的寄付	30,000
事業収益	32,765,357
その他収入	300,411
経常収益計	68,610,741



支出の部

項目	金額(単位:円)
取材事業・発信事業	40,518,981
若手発信者育成事業	8,695,600
緊急人道支援事業	4,830,361
管理部門	9,572,663
経常費用計	63,617,605



私共は、特定非営利活動促進法第18条に基づき、特定非営利活動法人Dialogue for Peopleの2023年度(2023年2月1日から2024年1月31日)の業務監査及び会計監査を行い、その結果、業務が適正に執行されており、会計について証拠書類及び関係書類は、記載すべき事項を正しく記載し、また支出すべて領収書等の証憑と合致していることを認め、ここに報告いたします。

※活動報告書および財務諸表の全体はDialogue for Peopleウェブサイトにてご確認ください。
<https://d4p.world/about/>

2024年4月5日

監事 石井宏明 

監事 潤間拓郎 

支援者のみなさんの声



佐藤 孝也さん

朝起きて犬の散歩をし、仕事をし、夜になったら眠る。休みの日は、晴れたら近所の山を歩き、雨なら珈琲を飲みながら家で本を読む。何気ない日常がどれほど幸せなことから、D4Pの取材活動・情報発信を通じて教えて貰っています。今ある日常の幸せが、突然の災害や事故や差別によって不条理に崩れてしまうことを。特別なことは要らない。今後ともマンスリーサポーターとして継続して支援させていただきます。



菅野 瑞穂さん

「声なき声」をどう表現できるだろうか。二度と繰り返してはならない、私は故郷で起きた原発事故に対して問い続けてきました。その中でD4Pさんの発信に勇気づけられることがありました。不確実の時代の中で、世界中で起きている出来事に向き合うことは痛みを伴います。知識や情報を正しく理解する学びを多様な視点でアップデートしてくれる活動に期待しています。



根本 佳代子さん

D4Pの魅力は、「人」だと思います。D4Pを運営する皆さん、インターンの皆さん、サポーターの皆さん。聡明で、深い思いやりの心を持つ、私の自慢の仲間です。2024年に入っても、世界のあちこちで政治・経済の混乱が続いていますが、D4Pは明るい未来へのキーメディアであり、D4Pと繋がる「人」がキーパーソンなのだと思います。いつの日か、全ての取材トピックが、平和な締めくくりで完結しますように！

組織概要

名称 特定非営利活動法人Dialogue for People
(ダイアログ フォー ピープル)

所在地 〒165-0026 東京都中野区新井2-10-3
KSビル202

設立 2019年3月23日

法人格取得 2019年5月22日

認定取得 2022年1月7日
有効期間:2022年1月7日から2027年1月6日まで
番号:3生都管第1069号

代表理事 佐藤 慧 / D4P事務局員

副代表理事 安田 菜津紀 / D4P事務局員
中山 大輔 / D4P事務局員

理事 石川 梵 / 写真家・映画監督
小澤 いぶき / 児童精神科医
在間 文康 / 弁護士

監事 石井 宏明 / 団体職員
潤間 拓郎 / 行政書士

事務局
スタッフ 有給職員:5名
インターン:のべ14名
(2023年度)

ご支援のお願い

「伝える」を「支える」ことから、 世界と「つながる」

国内外の取材、記事や動画の発信、自主企画の運営などのDialogue for Peopleの活動は、みなさまからのご寄付に支えられています。境界線を越えた平和な世界を目指すための、「伝える活動」へのご支援・ご協力をよろしくお願いします。

ご寄付のお申し込みはウェブサイトから

月々3,000円から始められる
マンスリーサポーター募集中!

Dialogue for Peopleは「認定NPO法人」です。
ご寄付は税控除の対象となります。

<https://d4p.world/donate/>



Dialogue for PeopleはSNSでも情報発信しています。

X(Twitter)

Instagram

Threads

Facebook

公式LINE

